

## 2 履修登録にあたっての注意事項

**履修は必ず全員が登録し、登録内容を確認すること(休学者を除く。)**

※ 必修科目(当該学年の必修科目)のみ履修する場合でも必ず確認すること。

### (1) 履修登録の手順

- ① 用意するもの: 学生生活ハンドブック・履修のてびき(時間割)・シラバス  
※ 授業の内容については Web シラバスを参照のこと。
- ② 履修のてびき29ページから記載の学科・学年別時間割を開く。
- ③ 履修のてびき19ページの必修科目自動登録単位数一覧表で自動登録されている科目数を確認する。
- ④ 履修希望科目の履修番号を開講の曜日時限に登録する(20ページの履修登録の入力方法を参照)。
- ⑤ 登録した科目・クラス等は、最終確認のため必ず印刷すること。

### (2) 履修登録上の注意事項

- ① 履修番号の登録を間違えると、エラーまたは全く別の科目が登録されるので注意すること。
- ② 在籍学年の必修科目(コース別必修科目を含む)は自動登録されているので登録する必要はない。万が一自動登録科目を変更する場合は、一度科目を削除して新たに登録する科目の履修番号をその時間帯に登録すること**(復学・原級・再入学・転学部・転学科・編入学及び過去に休学した者は、卒業まで自動登録とならないので、各自で履修番号を登録すること。)**。
- ③ 次のとおり学期ごと及び1年間に履修できる単位数は制限されている。これをキャップ制という。制限を超えて登録した場合は、エラーが表示されるので、超えた単位数に応じて科目を削除すること。削除しない場合は、超えた単位数分の科目が自動削除されるので注意すること。

**学期ごとに25単位まで・年間49単位まで(キャップ制)**

**【例】： 前学期科目を25単位履修する場合、後学期科目は24単位まで履修できる**

※ リメディアル科目、教職課程・学術情報課程科目、東京農業大学・短期大学部間の履修科目及び東京情報大学との協定に基づく履修科目は制限の対象外とする。

- ④ 同時限に開講している科目は、いずれかを選んで履修番号を登録すること。
- ⑤ 同一時限に隔週で開講する科目を履修する場合は、同一時限に登録すること。
- ⑥ 在学年次のクラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき、各自のクラスの履修番号を登録すること。
- ⑦ 低学年次のクラス分けのある科目は、クラスを選んで履修番号を登録すること(一部を除く。)
- ⑧ 2時限以上続けて開講する科目は、授業開始時限のみ履修番号を登録すること。
- ⑨ 集中授業科目は、開講学期にあわせて時間割外科目登録欄に履修番号を登録すること。
- ⑩ 通年科目は、前学期授業開始時限のみ履修番号を登録すること。
- ⑪ 高学年次配当科目は履修できない(他学科・他学部履修の場合も同様)。
- ⑫ 東京農業大学の学生が短期大学部の科目を履修する場合、または短期大学部の学生が東京農業大学の科目を履修する場合は、18ページ参照のこと。

### 履修登録単位数制限(キャップ制)の計算方法

履修登録単位数制限: 学期ごとに25単位・年間49単位

- ・ 前学期開講科目は前学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 後学期開講科目は後学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 1年間開講する科目(特別講義など通年科目)は、単位数を2分し、各学期の登録単位数としてカウントし、年間の単位数としてもカウントする。
- ・ 集中開講科目(時間割外科目)は、年間の単位数としてカウントする。

#### 【計算例】

前学期科目 24単位を登録…A      前学期 :  $A + C / 2 = 25$ 単位

後学期科目 20単位を登録…B      後学期 :  $B + C / 2 = 21$ 単位

通年科目 2単位を登録…C      年間 :  $(A + C / 2) + (B + C / 2) + D = 48$ 単位

集中科目 2単位を登録…D

※ この場合、各学期とも25単位を超えず、年間も49単位を超えていないので履修が認められる。

### 有料科目の納金方法

**再履修した場合は、1科目あたり2,000円の再履修料が必要となる。再履修料の納金方法や納金期間については、前学期科目(通年科目・前学期集中科目を含む)については6月上旬に、後学期科目(後学期集中科目を含む)については11月下旬にそれぞれ設けるので学生ポータルサイトまたは掲示板を確認すること。**

#### ※注意事項

- ・ 再履修とは一度履修した授業科目のうち、不合格(不可または未評価)になった授業科目を再度履修することという(他学科・他学部聴講した科目を再度履修する場合も同様)。
- ・ 履修登録する科目が有料科目であるか学生ポータルサイトの履修成績で確認すること。
- ・ 在学中に納金額の不足が発覚した場合は、その時点で納金することを義務づける。

## 3 履修登録上、特に注意を要する授業科目

### (1) 必修英語科目

所属学部によってクラス分けの方法が異なる。履修については学科ガイダンス等で説明があるので確認すること。農学部と地域環境科学部で再履修する学生は、再履修クラス(Sクラス)を履修すること。

※ 全学共通科目の英語科目は、他学科・他学部履修を認められない。

**※ クラス変更は認めない。**

### (2) スポーツ・レクリエーション(一)・(二)

履修人数に定員を定めており、**次の日程でクラス分けを行うので、履修希望者は必ず出席すること。**

**【世田谷キャンパス】: 第1回目の授業(桜丘アリーナ集合、上履き持参)**

**【厚木キャンパス】: 第1回目の授業(4月10日(金)、体育館集合、上履き持参)**

なお、定員を大幅に上回った場合は、人数調整を行う。授業担当者から履修を認められた者のみ履修登録できる。

※ 2年次以上の学生はどの学科のクラスでも履修することができる。この場合は必ず第1回目の授業に出席すること。

### (3) 卒業論文・卒業研究

卒業論文・卒業研究は、卒業年次生は6月30日までに、3年次生は1月22日までに所属学科へ「題目届」を提出すること。

#### (4) 隔週開講授業科目

次に記載する授業科目は、2科目を隔週で組み合わせて開講する。履修登録の際、2科目とも履修する場合は、両方の履修番号を開講時限欄に登録すること。

##### 【大 学】

	隔週開講科目の組み合わせ
農学 2	生物学実験(農生コース)／農学実習(二)(農生コース)
	生物学実験(園芸コース)／農学実習(二)(園芸コース)
畜産 1	化学実験／生物学実験
セラピー 1	農業実習(二)／共通演習
セラピー 2	生物学実験／分野別基礎実験・実習
森林 2	森林学実験実習／測量実習
工学 2	測量実習／生産環境工学基礎演習
造園 2	測量実習／CAD・GIS基礎演習

開発 2	農学基礎実験／農業専門実習
ビジネス 1	国際バイオビジネス基礎演習(二)／共通演習

##### 【短期大学部】

	隔週開講科目の組み合わせ
短緑 1	環境デザイン実習／CAD・GIS実習
	環境緑地管理実習／測量実習
短緑 2	造園技能実習／造園施工実習

#### (5) ステップ制のある授業科目

次の科目は、1年次に指定の授業科目の単位を修得することにより、2年次での履修が認められる科目である。

##### 【短期大学部 醸造学科】

「醸造特別実習(二)」(2年次配当科目):1年次に醸造特別実習(一)を履修し、単位を修得すること。

#### (6) クラス分けのある授業科目

- ① **クラス分けは、所属学科の在学年次の開講科目のみに適用される(クラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき自分の所属するクラスを確認すること。)**
- ② 総合教育科目の時間割に、A・B・C…でクラス分けがある場合は、クラスを選択できる。ただし、情報基礎、英語科目は指定がある場合があるので、ガイダンス等の指示に従うこと。
- ③ 短大(短栄を除く。)の情報基礎(二)を履修する場合は、情報基礎(一)と同じクラスを履修すること。
- ④ 原級・再履修の学生は、クラスを選択できる(健康・栄養・短栄を除く。)。ただし、情報基礎は最後のクラスで履修すること。
- ⑤ 教職・学術情報課程の時間割に、A・Bでクラス分けがある場合は、クラスを選んで履修すること。
- ⑥ 学科指定のある科目は、自分の学科で履修すること。ただし低学年次配当科目については、クラスを選んで履修することができる(一部を除く。)

#### (7) リメディアル教育科目

リメディアル教育科目は、原則として1年次の前学期に開講する。年度当初に受講対象者を決定し、対象学生は指定の授業に必ず出席しなければならない。**同科目は卒業要件単位には含まれないので、注意すること。**

#### (8) 他学科・他学部聴講・大学間履修

- ① 他学科・他学部聴講を希望する場合は、各学科の時間割を参照し、希望科目の履修番号を登録すること。  
(クラス分けのある科目はクラスを選んで履修番号を登録すること)  
※ 所属学科(配当学年を問わず)にある科目と同名の科目は他学科・他学部履修を認めない。  
(9～10ページの同名授業科目一覧を参照)
- ② 他学科・他学部聴講は、高学年次配当科目の履修はできない。
- ③ 他学科・他学部・大学間履修の履修登録単位は、在学中合計30単位(短大部は他学科・大学間履修で合計15単位)を上限とする。**※ 合否にかかわらず、履修登録が確定した時点で単位数をカウントする。**
- ④ **栄養科学科の「栄養士関係科目及び管理栄養士関係科目」の他学科・他学部・大学間履修および短期大学部栄養学科の「栄養士関係科目」の他学科・大学間履修は一切認めない。**
- ⑤ 実験・実習・演習科目は、他学科・他学部聴講・大学間履修を認めない(※国際食料情報学部共通の配当科目「海外農業研修」、国際農業開発学科の配当科目「海外農業実習(一)(二)(三)」を除く。)
- ⑥ 醸造科学科の「飲酒生理学」は、他学科・他学部聴講・大学間履修を認めない。
- ⑦ 生産環境工学科の「数学」「応用数学」は、他学科・他学部聴講・大学間履修を認めない。
- ⑧ 各学部総合教育科目の導入科目、英語科目、就職準備科目は、他学科聴講・他学部聴講・大学間履修を認めない。

## (9) その他、各学部の特有な科目

- ① 農学部 of 初修外国語関係科目「中国語(一)・(二)、ドイツ語(一)・(二)、フランス語(一)・(二)、スペイン語(一)・(二)」を農学部(農学科・畜産学科・バイオセラピー学科)の学生が履修する場合は、在学中、いずれかひとつの語学を選択して履修すること(在学中に複数の語学を選択することは認められない。)
- ② 応用生物科学部の初修外国語関係科目「中国語・スペイン語」を応用生物科学部の学生が履修する場合は、いずれかを選択して履修すること(複数の語学を選択することは認められない。)
- ③ 地域環境科学部の初修外国語関係科目「ドイツ語・中国語」を地域環境科学部の学生が履修する場合は、いずれかを選択して履修すること(複数の語学を選択することは認められない。)
- ④ 前学期に履修登録した科目について、単位を修得できなかった場合、後学期に同名科目を再度履修することは認められない。

## (10) 同名科目

次の表は、複数の学部・学科で開講している同名の授業科目一覧である。履修登録にあたっては以下の点に注意すること。

- ① **所属学科(配当学年を問わず)にある科目と同名の科目は、他学科・他学部履修ができない。**

【例】: 生物応用化学科の学生は、バイオサイエンス学科の「細胞生物学」を履修できない。

→生物応用化学科は2年次に「細胞生物学」開講があるため。

- ② 同名科目において、既に単位修得している場合は再度の履修は認められない。

### 【大 学】

科目名	学部	学科	学年
中国語(一)	農学部	学部共通	2
	応生学部	学部共通	1
	環境学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
中国語(二)	農学部	学部共通	2
	応生学部	学部共通	1
	環境学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
スペイン語(一)	農学部	学部共通	2
	応生学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
スペイン語(二)	農学部	学部共通	2
	応生学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
フランス語(一)	農学部	学部共通	2
	国際学部	学部共通	1
フランス語(二)	農学部	学部共通	2
	国際学部	学部共通	1
ドイツ語(一)	農学部	学部共通	2
	環境学部	学部共通	1
ドイツ語(二)	農学部	学部共通	2
	環境学部	学部共通	1
基礎生物	農学部	学部共通	1
	応生学部	学部共通	1
	環境学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
基礎化学	農学部	学部共通	1
	応生学部	学部共通	1
	環境学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
基礎数学	農学部	学部共通	1
	環境学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
文章表現	農学部	学部共通	1
	環境学部	学部共通	1
	国際学部	学部共通	1
環境科学	農学部	学部共通	3
	応生学部	学部共通	3

科目名	学部	学科	学年
生命科学	農学部	学部共通	3
	応生学部	学部共通	3
生命倫理	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
科学と哲学	農学部	全学科	3
	応生学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
芸術	農学部	農学	1
	農学部	畜産	1
	農学部	セラピー	1
文化人類学	農学部	農学	2
	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
農と科学の歴史	応生学部	全学科	1
	国際学部	全学科	2
日本国憲法	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	2
	環境学部	全学科	2
	国際学部	全学科	1
経済入門	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	2
現代社会の諸問題	農学部	農学	2
	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
国際関係を考える	農学部	農学	2
	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
生物学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
化学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1



科目名	学部	学科	学年
物理学	農学部	全学科	1
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	1
地学	農学部	全学科	2
	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	1
	国際学部	全学科	2
統計学	応生学部	全学科	1
	環境学部	全学科	2
数学	農学部	全学科	1
	応生学部	バイオ	1
	環境学部	工学	1
	国際学部	全学科	1
農業経営学	農学部	学部共通	3
	国際学部	開発	2
	国際学部	経済	2
食品衛生学	農学部	畜産	3
	応生学部	バイオ	3
	応生学部	化学	3
	応生学部	栄養	2
	応生学部	健康	2
食品化学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	醸造	3
	応生学部	健康	1
食品機能学	応生学部	醸造	3
	応生学部	栄養	2
	応生学部	健康	2
食品微生物学	農学部	畜産	2
	応生学部	醸造	1
測量学	環境学部	森林	1
	環境学部	工学	2
	環境学部	造園	2
生物統計学	農学部	畜産	2
	農学部	セラピー	2
	応生学部	バイオ	1
	応生学部	健康	3
生物有機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	化学	2
	応生学部	健康	2
	農学部	農学部	3
分子生物学	応生学部	化学	2
	応生学部	健康	2
	農学部	農学	1
遺伝学	農学部	セラピー	1
	農学部	畜産	1
家畜栄養学	農学部	セラピー	2
	農学部	畜産	1
家畜管理学	農学部	セラピー	2
	農学部	畜産	1
環境化学	応生学部	化学	2
	応生学部	醸造	3
細胞生物学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	化学	2
	応生学部	健康	2
植物生理学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	2
土壌学	農学部	農学	1
	応生学部	化学	3

科目名	学部	学科	学年
無機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	健康	1
有機化学	応生学部	バイオ	1
	応生学部	健康	1
	応生学部	栄養	1
有機化学(一)	応生学部	化学	1
	応生学部	醸造	1
有機化学(二)	応生学部	化学	1
	応生学部	醸造	2
微生物学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	2
	応生学部	健康	1
	応生学部	栄養	1
分析化学	応生学部	醸造	1
	応生学部	健康	1
	応生学部	栄養	1
公衆衛生学	応生学部	醸造	2
	応生学部	栄養	3
	応生学部	健康	2
実験動物学	農学部	畜産	1
	応生学部	バイオ	3
食品加工学	応生学部	醸造	1
	応生学部	栄養	2
食品製造学	応生学部	バイオ	2
	応生学部	化学	3
生化学	農学部	畜産	1
	応生学部	バイオ	1
	応生学部	健康	1
生化学(一)	応生学部	醸造	2
	応生学部	栄養	1
生化学(二)	応生学部	醸造	2
	応生学部	栄養	2
動物発生工学	農学部	畜産	3
	応生学部	バイオ	3
病理学	応生学部	健康	3
	応生学部	栄養	2
農業経済学	国際学部	開発	1
	国際学部	経済	1
農業貿易論	国際学部	開発	3
	国際学部	経済	2

#### 【短期大学部】

科目名	学部	学科	学年
食品衛生学	短大部	短醸	2
	短大部	短栄	1
食品化学	短大部	短醸	1
	短大部	短栄	1
有機化学	短大部	短醸	1
	短大部	短栄	1

#### 4 英語による専門教育プログラムの履修登録【履修対象:学部生のみ】

Courses Offered by Special Program (Conducted in English) :

「Agriculture, Food and Environment」

##### ◎ 「英語による専門教育プログラム」受講の勧め

本プログラムは 2002 年度から開講しており、年度を追うにつれて次第に受講生も増加してきました。本プログラムは、日本人の学生はもとより海外からの留学生に対して、日本およびほかのアジア諸国における食料、農業ならびに環境に関する現状と課題を総合的に理解してもらうことを目的に、英語で開講しているものです。英語での授業を通じて、日本人の学生にとっては、自分の専門分野を英語で習得するよい機会となってそれが留学プログラムを立案したり、International Studies をより深く理解することに役立ち、また留学生にとっては日本語の授業で十分理解しえない部分を習得できる絶好の機会となります。将来を通じた自分のキャリア・ステップを考慮に入れて、受講されることを強く勧めます。

##### (1) Program Title:

Special Program (Conducted in English) : Agriculture, Food and Environment

##### (2) Rationale

An integrated approach is important for the solution of problems of mankind in such areas as food, environment, health, resources and energy, which are all mutually related and interwoven. The food problem generally refers to problems of food production, distribution and consumption, thus covering a wide range of topics. For instance, food production is closely related not only to natural environment but also agricultural and food processing technologies. Distribution of food is determined by political and economic mechanisms, while improved storage and distribution technologies have tremendously contributed to the widening scope of marketing. Food consumption is highly related to the level of income but culture, social norms and dietary habits are other key determinants of what and how people consume food.

Modern agricultural science has greatly contributed to increased food production, which has expanded beyond global population growth. However, problems of environmental destruction and unassured food safety have also emerged. The urgent need to assure environmental conservation and safe food supply are now globally recognized. At Tokyo University of Agriculture, a multidisciplinary, all-university-education program is now being offered for the study of food and environment. Integrated learning of agriculture, food and environmental issues guides students to see how they can make a contribution to solving global issues in the 21st century.

This program provides the opportunity for Japanese students as well as international students to gain holistic understanding on issues of food, agriculture and environment in Japan and other Asian countries.

##### (3) Time Table (in 2015)

This program was established in April 2002 (not listed in the 2002 course catalogue). The courses are offered to all students in 2014. It is our advice that you select courses according to your English ability.

##### 【First semester】

Comparative Nature Study from Cultural Perspective

Environment and Agriculture

Food and Environment in Economic Development

Food and Health 1

Forest and Forestry

Global Food Systems  
 Japanese Agricultural Development  
 Life history and Applications of Landscape Plants  
 Planning and Design of Landscape Architecture  
 Vegetable Production Technologies for International Cooperation  
 Field Study of Food and Environment(intensive)  
 Sustainable Agriculture in Asia(intensive)  
 Introduction to Bioindustry

**【Second semester】**

Agricultural Scientific English for International Cooperation  
 Agricultural Trade  
 Agro-Environmental Engineering  
 Comparative Developing Agriculture  
 Comparative Food Production Technologies  
 Ecology and Agricultural Production  
 Ecology and Food Production  
 Edo Aesthetics and Environmental Resiliency  
 Food and Health 2  
 Farmers and Consumers in Japan  
 Group Approach to Food and Environment(intensive)  
 Molecular Biology and Biotechnology  
 Eastern Hokkaido: Identifying Opportunities in a Region of Declining Population

**(4) Credits**

Each course carries two credits. Credits earned in this program can be counted for graduation requirements, to a maximum of 30 credits under the inter-faculty enrollment system, as specified in Article 15 (3) in the TUA Constitution.

**(5) Examination and Grade**

Examinations are conducted during the lecture period. Students are requested to follow the instruction of the lecturers. Since supplementary examinations will not be provided, unsuccessful students are required to re-enroll in the following years.

**(6) Fees Required**

No additional payment is required. However, as fieldtrips and experiments are needed, the students enrolled in Environment and Landscape of Japan, Environment Conservation in Asia, Field Study of Food and Environment, Group Approach to Food and Environment, and Sustainable Agriculture in Asia are required to cover their own expenses. Details will be given in the class.

**(7) You may sit-in under this program**

For those students who are interested in the program but are unsure of their English competency, auditing is allowed upon permission from the lecturer. No registration is required in this case, but students can make a formal registration after gaining confidence.

## 5 平成27年度特別講義一覧

### はじめに

特別講義は、学生の皆さんが幅広い教養・素養を身につけ、卒業後各方面で最大限に能力を発揮できるようになることを目的として開講します。本学の専門分野の教育は充実しており、その内容・成果に十分な自信を持っていますが、それに加えて、教養面での教育を重視する意味で、様々な内容による特別講義を開講します。

平成27年度の特別講義は、専門教育を補完し、社会に出て役立つ、さらに就職試験にも役立つ多分野の教養的講座として厚木キャンパスでは1コース、世田谷キャンパスでは7コースを開講します。

なお、特別講義(一)～(四)(※短期大学部は(一)・(二))は開講時間が重ならなければ複数履修することができます、上級学年になってからでも履修することができます。

### ●厚木キャンパス開講コース

#### 特別講義

### ●世田谷キャンパス開講コース

#### 特別講義

- A コース 海外現場事情 ―国際活動実践論―
- B コース 実践文章表現 ―ジャーナリスト入門―
- C コース 源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験基礎コース
- D コース 源流大学 ―源流域で源流学を学ぶ― 体験応用コース
- E コース 日本農業のサステナビリティ学(持続可能性)
- F コース 公開講座を聴く ―現代を生きる幅広い教養を―
- G コース 世田谷6大学コンソーシアム連携授業 「食料問題の経済学」

### ●コース別開講目的

#### <厚木キャンパス>

##### 特別講義

<コーディネーター 農学部長・畜産学科 教授 鈴木敏郎>

これからの農学は、専門性を越えて、他の領域を取り込んで新たな体系化を図ることや、遺伝子から地球環境にいたるまで幅広い視点から課題を解決することが要求されている。この講義は、農業生産や人との関わりへの貢献等、農学領域で注目される動植物や微生物の力に焦点をあて、動植物の能力、その活用やつながりなどについて幅広く展開する。

#### <世田谷キャンパス>

##### A コース. 海外現場事情 ―国際活動実践論―

<コーディネーター 国際農業開発学科 教授 入江憲治>

本学は国際社会で活躍する多数の卒業生を輩出している。これらの活動に関連する学科の科目は、既に国際農業開発学科を中心に幾つかの学科のカリキュラムに配当されている。

本講義ではさらに、海外活動の現場で惹起する問題への実践的な対応力の向上に必要な実体験からのノウハウやアダプタビリティーについて最新の情報を提供するものである。具体的には、国際機関、ODA、NGO、NPO、民間企業において活躍する経験者、有職者、本学卒業生による実践活動、そこでの苦労・苦心・喜怒哀楽などの体験談や、これらの活動に対する実技術・知識・ノウハウを教授し、併せて海外体験の奨励を図る。

なお、本講義では海外活動への参画を大望する学生へ、そのチャンスと試験などアプローチの方法についても紹介する。



## B コース. 実践文章表現 ―ジャーナリスト入門―

＜コーディネーター 応用生物科学部 教授 北村行孝＞

論理的で、わかりやすく、誤解を招かない文章を書くためにはどうすればよいのか。各種の文章を作成することにより、文章表現の素養や技法を身につける。素材として新聞記事や時事問題をとりあげて、社会への関心を深める。また、長年新聞記者として報道・論評の現場に身を置いた経験を生かし、多様化するメディア環境のなかで、情報をどう受け止め発信するかというメディアリテラシーを高めるための指導を行う。

## C コース. 源流大学 ―多摩川源流域で源流学を学ぶ―体験基礎コース

＜コーディネーター 森林総合科学科 教授 宮林茂幸＞

このコースは、本学が多摩川源流域の山梨県小菅村で行っている「多摩川源流大学」プロジェクトに参加し、講義と体験実習をとおして源流域の自然や文化を学ぶ。学内において源流域の自然や文化を学ぶ講義を受講しながら、学んだことを実際に現地で体験実習することで、内容を確認し自らのものにすることを目的としている。また、体験実習では小菅村の住民の方々を講師に迎え、森林整備活動として間伐や枝払い、農地での開墾や野菜の栽培、その他郷土食料理調理実習など様々な実習を通して現地の知恵を中心に学んでいく。なお、実習は小菅村だけでなく、岩手県一関市、福島県鮫川村等も行い、流域や農山村に関わる幅広い知識の獲得と体験を行う。これらをとおして農山村の現状を学び地域問題の理解と解決能力の向上を養う。

## D コース. 源流大学 ―多摩川源流域で源流学を学ぶ―体験応用コース

＜コーディネーター 森林総合科学科 教授 宮林茂幸＞

このコースは、多摩川源流域の山梨県小菅村にある「源流大学」で、昨年基礎コースを修了した学生を対象に、実習を行う。このカリキュラムでは最終実習での村民へ向けた発表会にむけて、1年間専門的に農業、林業など自分の興味があるコースを選択し学ぶことができる。例えば源流域の森林管理や整備に関する基本的な森林調査や、また、源流域の農業体験では、地形的にも、規模的にも厳しい条件にあり、そうした中で、手の労働による農業技術、加工技術等を学ぶ。より深く源流文化に触れ、将来地域に入って活躍できる人材を育成する。

## E コース. 日本農業のサステナビリティ学(持続可能性)

＜コーディネーター バイオサイエンス学科 教授 林隆久＞

今日の日本の農業は、農業者の高齢化と飼料米生産調整・食料自給率の低下そしてTPPで揺れ動いている。日本の農業問題に焦点を当て、日本の農林畜産業の持続可能性を検証する。

## F コース. 公開講座を聴く ―現代を生きる幅広い教養を―

＜コーディネーター 副学長・醸造科学科 教授 小泉幸道＞

本学の教員および社会、経済、政治、文化、歴史、芸術、スポーツなどの各分野で活躍している学外講師による一般および専門教養を中心にトピックスな話題をテーマとし、社会生活上、必要な幅広い教養と社会性、美的センス、バランス感覚を身につけることを目的に開講する。併せて、市民に対し公開講座としても開講している。

## G コース. 世田谷6大学コンソーシアム連携授業「食料問題の経済学」

＜コーディネーター 副学長・醸造科学科 教授 小泉幸道＞

世田谷6大学コンソーシアム協定大学(国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京農業大学、東京都市大学)間において、それぞれの大学の特色ある授業科目を開講する。世田谷区に所在する協定大学の利点を活かした、多様な学修の機会を提供するものである。本学では今年度の世田谷6大学コンソーシアム連携授業として、成城大学の教授による特別講義 G コース「食料問題の経済学」を開講する。

## 特別講義(世田谷キャンパス開講)の履修登録について

履修する場合は、次のA～Gコースの中から受講するコースを選び履修登録すること。

コース	学期	曜日／時限	科目名	教員	教室	備考
Aコース	通年	木 5～6	海外現場事情 -国際活動実践論-	入江憲治	441	
Bコース	前学期	木 5	実践文章表現 -ジャーナリスト入門-	北村行孝	511	
Cコース	集中(通年)	水 5	源流大学 -源流域で源流学を学ぶ- 体験基礎コース	宮林茂幸	142	
Dコース	集中(通年)		源流大学 -源流域で源流学を学ぶ- 体験応用コース	宮林茂幸	142・112	詳細は総合教育科目 時間割参照
Eコース	後学期	月 5	日本農業のサステナビリティ学(持続可能性)	林隆久	231	
Fコース	前学期	水 5～6	公開講座を聴く -現代を生きるための幅広い教養を-	小泉幸道	百周年	
Gコース	前学期	金 5～6	食料問題の経済学	小泉幸道	231	

### 【注意事項】

○学部生は、特別講義(一)～(四)を履修することができる。

○短大生は、特別講義(一)～(二)を履修することができる。

開講曜日・時限が異なれば1年間に2コース以上の履修が可能です。なお、履修登録単位は年間・各学期の履修制限単位数に含まれます。  
下表にもとづき履修登録をしてください。

はじめて「特別講義」を履修する場合は「特別講義(一)」を履修登録し、順次(二)・(三)・(四)を履修登録してください。

		Aコース	Bコース	Cコース	Dコース	Eコース	Fコース	Gコース
		木 5～6	木 5	集中	集中	月 5	水 5～6	金 5～6
学部生	特別講義(一)	4043	4047	4258	4262	7979	4039	3863
	特別講義(二)	4044	4048	4259	4263	7980	4040	3864
	特別講義(三)	4045	4049	4260	4264	7981	4041	3865
	特別講義(四)	4046	4050	4261	4265	7982	4042	3866
短大生	特別講義(一)	4166	4168	4287	4289	8086	4164	4210
	特別講義(二)	4167	4169	4288	4290	8087	4165	4211

## 6 教職課程の履修登録について【履修対象:学部生のみ】

### (1) 履修登録までのスケジュール

① 1年次生の受講希望者に対するガイダンス

次のとおりガイダンスを実施するので、**受講希望者は必ず出席すること。**

【世田谷キャンパス】※いずれか都合のよい日に出席すること

4月 8日(水) 16:30～17:10 331教室

4月 9日(木) 16:30～17:10 332教室

4月10日(金) 16:30～17:10 332教室

【厚 木キャンパス】※いずれか都合のよい日に出席すること

4月 8日(水) 12:20～12:50 1202教室

4月 8日(水) 18:00～18:30 1202教室

4月 9日(木) 12:20～12:50 1202教室

② 履修の申込

受講希望者は「教職課程 履修案内」を受け取り、履修を申し込む。教員がその場で内容を確認する。

【世田谷キャンパス】※いずれか都合のよい日に出席すること

7月20日(月) 12:20～12:50 332教室

7月22日(水) 16:30～17:30 331 教室

7月24日(金) 18:00～19:00 332教室

【厚 木キャンパス】※いずれか都合のよい日に出席すること

7月20日(月) 12:20～12:50 1202教室

7月21日(火) 18:00～19:00 1202教室

③ 受講料振り込み用紙配布

9月30日(水)～10月 9日(金)

④ 受講料振り込み期間

10月19日(月)～10月23日(金)

### (2) 履修登録注意事項

① 学部・学科開設科目で取得を希望する免許教科の「教科に関する科目」は、1年次から履修すること。「教科に関する科目」に該当する科目は「学生生活ハンドブック」の授業科目配当表で確認すること。

② 教育実習派遣条件を満たすため、「スポーツ・レクリエーション(一)(二)」「日本国憲法」を3年次までに修得すること。

③ 教職課程が開講する科目は2年次から履修することができる。

④ 教職課程履修に関しては次の受講料が必要となる。

1免許教科 120,000円

2免許教科 140,000円

3免許教科 160,000円

4免許教科 180,000円

※中学・高校理科は1免許教科として扱う。納金した受講料は返金しない。

⑤ 教職科目は教職科目時間割表で開講科目を確認し、必修科目であっても履修登録すること(教職科目は自動登録にはならない)。

⑥ 複数開講している講義科目は受講する日時を選択し、履修登録すること(学科指定開講科目を除く)。

※世田谷・厚木両キャンパスで開講している講義科目は、学科指定のある科目を除き履修することができる。

⑦ 実験科目は受講学科を定めて開講しているので、確認のうえ履修登録すること。

## 7 学術情報課程の履修登録

### (1) 学部1年次生の履修申請

- ① 受講希望者に対するガイダンス履修説明会の実施  
平成27年10月上旬日程揭示、11月実施  
※ 厚木・世田谷キャンパスどちらのガイダンスに出席しても可
- ② 受講料  
学芸員資格(単修) :130,000円  
司書資格(単修) :130,000円  
学芸員・司書資格(併修) :180,000円
- ③ 履修許可者発表  
平成28年1月(詳細は履修説明会で説明)
- ④ 申込先  
世田谷キャンパス:教職学情課  
厚 木キャンパス:学生教務課

### (2) 短期大学部1年次生の履修登録

- ① 受講希望者に対する履修説明会を行うので**受講希望者は必ず出席すること(履修申請書を配付する)。**
- ② 履修説明会 : 第1回目 平成27年4月 9日(木)12:20~12:50頃まで 332教室  
第2回目 平成27年4月10日(金)12:20~12:50頃まで 332教室
- ③ 受講料 : 130,000円
- ④ 納金方法 : 教職学情課より発行する納付書を確認し、5月上旬に振り込む。

## 8 全学共通科目「日本語」の履修登録

この科目は、外国人留学生及び帰国子女を対象として開講する授業科目である。**修得した単位は、卒業要件として他学科履修・他学部履修・英語による専門教育プログラムと合わせて30単位まで(短大部は他学科履修と合わせて15単位まで)含めることができる。**

- ※ 農学部の学生が、日本語科目を履修する場合は、厚木キャンパス学生教務課に申し出ること。
- ※ 開講は学部のみ。短期大学部の学生が履修する場合は、大学間履修の手続きをすること。



## 9 大学間履修(東京農業大学の学生が短期大学部の授業科目を履修する場合、または短期大学部の学生が東京農業大学の授業科目を履修する場合)について

東京農業大学(以下「大学」という)の学生が短期大学部の授業科目を、また短期大学部の学生が大学の授業科目をそれぞれ履修することができる。ただし、別大学の授業科目として取り扱うため、履修登録方法や修得単位の取扱い及び履修料金等については以下の取り決め事項が適用となる。履修希望者は十分理解の上、所定の手続きを行うこと(学生ポータルサイトからの履修登録とは別手続きになるので注意のこと。)

### (1) 履修できる授業科目

各学科の選択科目(配当学年に関係なく履修できる)。ただし、次の科目は履修を認めない。

- 必修科目、コース別必修科目、選択必修科目
- 英語科目
- 実験・実習・演習科目
- 教職課程科目
- 学術情報課程科目
- 英語による専門教育プログラム関係科目
- 栄養科学科及び短期大学部栄養学科の「栄養士関係科目」「管理栄養士関係科目」
- リメディアル教育科目

### (2) 履修登録単位数の上限

- ◇ 大学の学生が短期大学部の授業科目を履修する場合  
⇒ 大学間履修・他学科履修・他学部履修と合わせて30単位以内
- ◇ 短期大学部の学生が大学の授業科目を履修する場合  
⇒ 大学間履修・他学科履修と合わせて15単位以内

### (3) 単位認定について

修得した科目は、他大学等での修得科目として成績台帳に記載する。また、修得単位の合計を選択科目の卒業要件単位として認定する。

### (4) 履修手続方法

- 前学期の開講科目は **4月20日(月)**以降に教務課窓口にて履修届用紙を配付する。
- 後学期の開講科目は **9月下旬(予定)**に教務課窓口にて履修届用紙を配付する。
- ※ 厚木キャンパスは、学生教務課で履修届用紙を配付する。
- ※ 登録後の変更は一切認めない。
- ※ **1年次生は大学間履修登録することができない。**

### (5) 履修届提出期間

【前学期】世田谷:**4月27日(月)～4月28日(火)**      厚木:**4月20日(月)～4月24日(金)**  
【後学期】世田谷・厚木:**9月下旬(予定)**

### (6) 履修に係る料金

1科目(半期2単位)につき、15,000円

※ **学部生は在学中12単位まで、短大生は在学中6単位までは無料。**

### (7) 履修した場合の試験

定期試験及び追試験を実施する。

## 10 東京情報大学との協定に基づく科目の履修登録

※ 学事課窓口で確認のこと。

## 11 必修科目自動登録単位数一覧表

### 【大学】

学科名	学期	1年次	2年次
農学 (農生コース)	前学期	16/25	4/25
	後学期	13/25	4/25
	年間	31/49	8/49
農学 (園芸コース)	前学期	16/25	4/25
	後学期	13/25	4/25
	年間	31/49	8/49
畜産	前学期	16/25	18/25
	後学期	13/25	16/25
	年間	30/49	34/49
セラピー	前学期	18/25	4/25
	後学期	13/25	4/25
	年間	31/49	8/49
バイオ	前学期	14/25	20/25
	後学期	17/25	21/25
	年間	31/49	41/49
化学	前学期	14/25	14/25
	後学期	20/25	15/25
	年間	34/49	29/49
醸造	前学期	20/25	12/25
	後学期	13/25	16/25
	年間	33/49	28/49
健康	前学期	22/25	16/25
	後学期	19/25	19/25
	年間	41/49	35/49
栄養	前学期	19/25	22/25
	後学期	19/25	12/25
	年間	38/49	34/49
森林	前学期	14/25	14/25
	後学期	9/25	14/25
	年間	24/49	28/49
工学	前学期	14/25	14/25
	後学期	17/25	14/25
	年間	31/49	28/49
造園	前学期	12/25	12/25
	後学期	13/25	14/25
	年間	25/49	26/49

学科名	学期	1年次	2年次
開発	前学期	16/25	9/25
	後学期	17/25	5/25
	年間	35/49	14/49
経済 (食料コース)	前学期	12/25	12/25
	後学期	10/25	8/25
	年間	23/49	22/49
経済 (農業コース)	前学期	12/25	14/25
	後学期	10/25	6/25
	年間	23/49	22/49
経済 (環境コース)	前学期	12/25	14/25
	後学期	10/25	6/25
	年間	23/49	22/49
ビジネス	前学期	14/25	12/25
	後学期	14/25	12/25
	年間	28/49	24/49

※農学・畜産・森林・開発・経済の年間単位数には集中開講科目の単位が含まれる。

※農学・経済の1年次の必修単位数をコース毎に記載しているが、1年次にコース分けはない。

### 【短期大学部】

学科名	学期	1年次	2年次
短生	前学期	15/25	5
	後学期	2/25	7
	年間	17/49	12
短緑	前学期	15/25	6
	後学期	7/25	2
	年間	25/49	10
短醸	前学期	14/25	11
	後学期	17/25	5
	年間	31/49	16
短栄	前学期		3
	後学期		3
	年間		6

※短緑・短栄の年間単位数には、集中開講科目の単位が含まれる。

○この表は自動登録してある必修科目の単位数を表示している。

○この単位数を確認し履修登録単位数制限以内で履修登録を行うこと。

※登録されている必修科目を取り消して別の科目を登録する場合は、当該科目の開講曜日・時に履修番号を登録すること(これにより自動登録されている必修科目は削除される)。

○次の学生は、自動登録されないの、必修科目についても履修番号を登録すること。

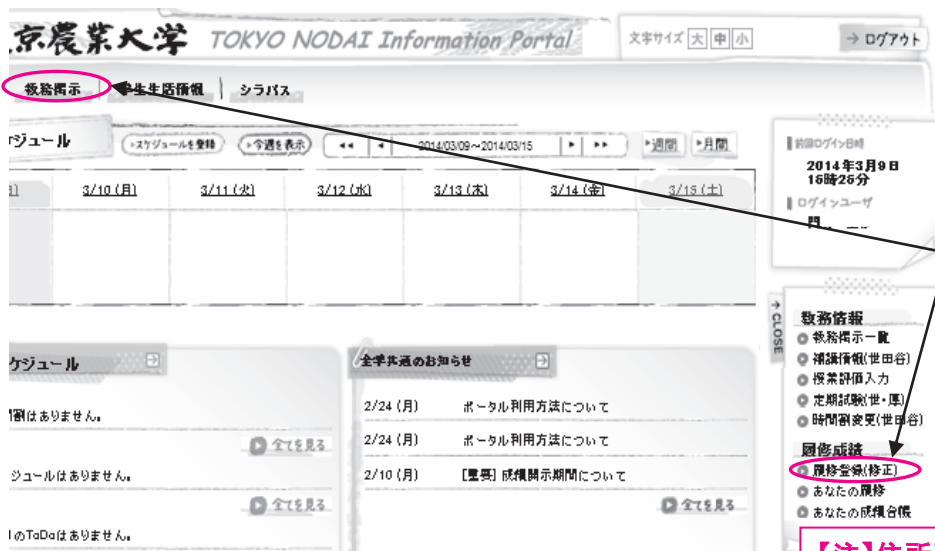
復学・原級・再入学・編入学・学士編入学・転学部・転学科及び過去に休学した者。

○前年度までに履修登録した他学科・他学部聴講及び大学間履修の登録総単位数を成績台帳で確認して上限を超えて登録しないよう注意すること。

## 12 履修登録の入力方法


履修登録は学生ポータルサイトの照会「履修登録(修正)」からできる。登録方法は以下のとおり。

### (1) 学生ポータルを開き「履修登録・修正」をクリックする。



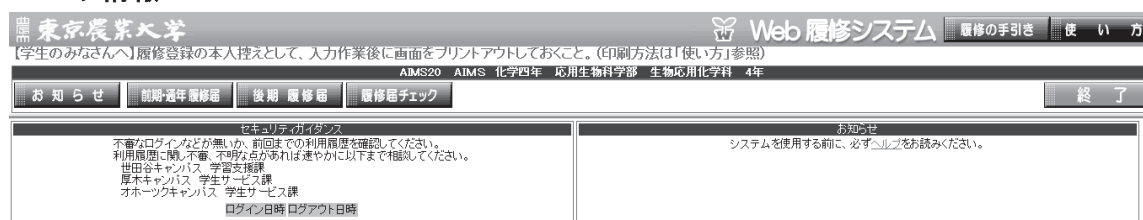
The screenshot shows the Tokyo Nodai Information Portal. The '教務情報' (Academic Information) tab is selected in the sidebar. Under this tab, the '履修登録(修正)' (Registration/Correction) link is highlighted with a red circle. A callout box points to this link with the text: 「教務情報」タブを選択 「履修登録(修正)」をクリック. Another callout box at the bottom right states: 【注】住所確認(または変更)を行っていない学生は、Web 履修システムへログインすることができません。

### (2) ログイン画面



The screenshot shows the login page. It has fields for 'ユーザID' (User ID) and 'パスワード' (Password). The User ID field contains '05090001'. There are 'ログイン' (Login) and 'リセット' (Reset) buttons. A callout box points to these fields with the text: ユーザ ID(学籍番号)とパスワードを入力

### (3) ユーザ情報バー



The screenshot shows the user information bar. It displays the user's name, student ID, and faculty. There are buttons for 'お知らせ' (Notice), '前期・通年履修届' (Previous/General Registration), '後期履修届' (Second Semester Registration), and '履修届チェック' (Registration Check). A '終了' (End) button is also present. A callout box points to the '履修届チェック' button with the text: ユーザ ID(学籍番号)とパスワードを入力

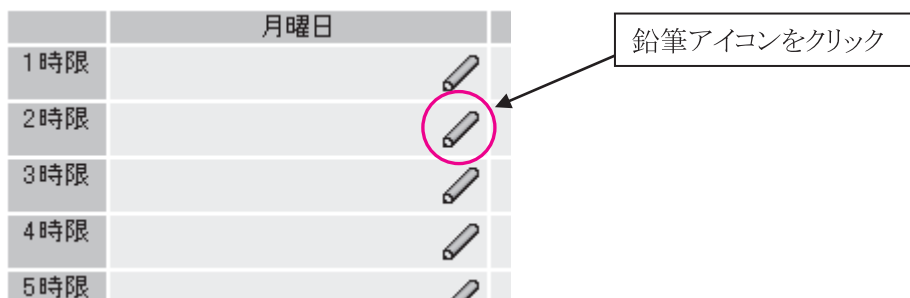
ログインしたユーザの学籍番号、氏名、所属が表示される。

- ①お知らせ……………お知らせ画面が表示される。
- ②前期・通年履修届……………前期の時間割表が表示される。前期・通年の履修登録操作もこの画面から行う。
- ③後期履修届……………後期の時間割表が表示される。後期の履修エントリー操作もこの画面から行う。
- ④履修届チェック……………履修登録の内容をチェックした結果が表示される。エラーや警告がある場合は再度登録操作を行うこと。
- ⑤終了……………作業を終了する。終了前には、必ず履修届チェックを行うこと。

#### (4) 履修登録を新規追加する

新しく履修登録を追加(履修を申請)する方法について。

##### ① 時間割表にある新規追加アイコン(鉛筆アイコン)をクリックする。



##### ② 申請する科目の開講番号(4桁の数字)を入力し、「確認」ボタンをクリックする。

「該当する開講がありません」というエラー通知が表示された場合は、入力した開講番号を確認し、再度操作を行うこと。

開講番号	1161	確認	前期・通年 火3
------	------	----	----------

##### ③ 表示された開講の情報を確認する。

開講番号	1161	確認	前期・通年 火3
開講番号	1161	単位数	2
開講科目名	数学		
専攻(学科)	バイオ		
学年	1	クラス	
学期	前期	時間種別	通常開講
曜日・時限	火3		
担当者	林 大智		
施設			

科目名・曜日時限・担当者等を確認したら  
「登録」ボタンをクリック

戻る

登録

※開講科目名をクリックするとシラバスが表示されます

##### ④ 「登録」ボタンをクリックして追加する。

追加しない場合は「戻る」ボタンをクリックする。

##### ⑤ 時間割画面で登録が追加されたことを確認する。

表示された時間割画面で、新規追加した履修登録が表示されていることを確認する。





(5) 履修を削除する。

	月曜日
1時限	1002 中国語(一)[A]
2時限	

削除する「履修番号」をクリック

申請中履修(センターへ登録を申請する履修です)

開講番号	1002	単位数	2
開講科目名	中国語(一)		
専攻(学科)	バイオ,化学,醸造,栄養,管理		
学年	1	クラス	A
学期	前期	時間種別	通常開講
曜日・時限	月1		
担当者	林 大智		
施設			

「履修登録の申請を取り消す」をクリック

戻る

履修登録の申請を取り消す

(6) 履修の登録がすべて終了したら履修届チェックをクリックする。「履修届チェック」をクリックしないと登録出来ません。

東京農業大学 Web 履修システム

【学生のみへ】履修登録の本人控えとして、入力作業後に画面をプリントアウトしておくこと。(印刷方法は「使い方」参照)

お知らせ 前期・通年履修届 後期 履修届 履修届チェック 終了

2024年度 後期 履修届 チェック:未確認

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限	7113 無機化学(二)		7126 情報基礎(二)[O]	7120 生物化学(一)	
2時限	7036 英会話(一)(化学)[A]	7133 共通演習	7119 有機化学(二)		
3時限	7015 生命倫理(化学)[E]	7027 TOEIC英語(二)(化学)[A]	7123 有機化学実験		
4時限	7057 心の構造[A]		7123 有機化学実験		

「履修届チェック」ボタンをクリック

①履修数、エラーなどの結果が表示される。

【履修届単位数】				
	単位数(カッコ内は 前の学期までの数)	制限数	制限超過単位数	
前期	25	25		
後期	24	25		
年間	49	49		
化学部	0 (0)			
他学部	0 (0)			
大学院	0			
化学部+他学部+大学院	0	30		
【履修届チェック結果】				
エラー番号		エラー内容		
エラー番号	エラー内容	開講番号	科目名	クラス

②履修単位数

履修登録の単位数が表示される。他学部、他学科の履修はカッコ内に前学期までの履修数が表示される。

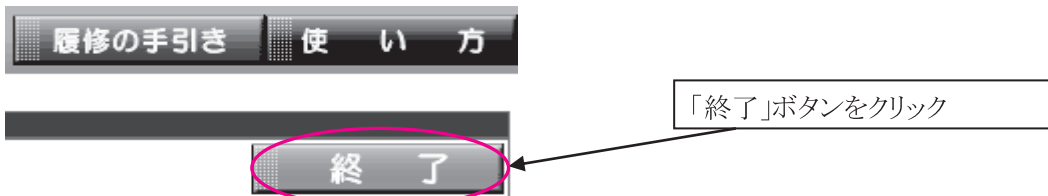
③履修届チェック結果

履修届のチェック結果が表示されます。エラーの場合は赤、警告の場合は黄色で表示される。

チェック結果はシートチェックとエントリチェックの2種類がある。

詳細はユーザ情報バーの「使い方」(ヘルプ)で確認すること。

(7) 作業終了をクリックして結果を保存してログアウトする。



(8) 履修届の受付が正常の状態でしたら「閉じる」ボタンをクリックしてログアウトする。

履修届受付完了

履修届の受付が **正常** の状態で完了いたしました。

受付科目件数

登録・削除申請数	14件
警告	0件
エラー	0件

---

セキュリティガイドンス

ログイン日時	2007年02月20日 20時20分
ログアウト日時	2007年02月20日 20時27分

[ログイン画面にもどる](#)

### 13 履修確認について

- (1) 学生ポータルサイトで履修登録状況を確認すること。確認日程等は5ページを参照のこと。
- (2) **履修登録の内容に修正がある場合は、必ず履修修正期間に学生ポータルサイトで修正すること。**
- (3) 履修登録は履修番号に基づき行っている。履修番号を誤って登録すると、エラーが表示されるか、全く別の授業科目が登録される場合があるので、登録されている授業科目名・クラス・担当者を確認すること。

### 14 履修確定について

- (1) 学生ポータルサイトで履修登録状況を確認すること。日程等は学生ポータルで掲示する。
- (2) 履修登録(修正・変更を含む)期間では、**自分の登録画面を必ずプリントアウト**し、いつでも確認できるようにすること。
- (3) 用語の説明
  - ①正規履修 → 所属する学部・学科で開講している科目を初めて履修登録する場合の登録種別。在学年次授業科目の場合は、指定したクラス分に従い履修登録すること。低学年次の授業科目の場合は、クラスを選んで履修登録すること。
  - ②再履修 → 一度履修した授業科目のうち、不合格(不可または未評価)になった授業科目を再度履修する場合の登録種別。有料(1科目 2,000円)である。
  - ③他学科履修 → 所属する学科以外の学科で開講している科目を履修する場合の登録種別(教職課程科目を除く)。なお、一度履修し、不合格のため再度履修する場合は、有料(1科目 2,000円)であり、他学科履修登録単位数にも加算する。
  - ④他学部履修 → 所属する学部以外の学科で開講している科目を履修する場合の登録種別(教職課程科目を除く)。なお、一度履修し、不合格のため再度履修する場合は、有料(1科目 2,000円)であり、他学部履修登録単位数にも加算する。

## 15 後学期履修変更の受付けについて

- ◇ 後学期の履修変更の手続きも学生ポータルサイトにて行う。
- ◇ 手続きの詳細(日程等)については、**9月上旬**に学生ポータルサイトに掲示するので確認すること。

### 履修に関する重要事項

履修登録に関する情報は、学生ポータルサイトを通じて行う。また、学期ごとの成績発表もすべての学科・学年において学生ポータルサイトを通じて行う。  
普段から学生ポータルサイトを確認する習慣をつけること。

## 16 授業について

本学では授業に関するさまざまな情報を学生ポータルサイトにて開示している。授業を受講するにあたっては、次の事項について把握すること。

### (1) 授業の内容を知るには・・・

Web シラバスを活用すること。Web シラバスには教育目的・各回の内容・受講上の注意事項などが記載してある。

### (2) 授業の開講に関する情報は・・・

- ◇ 授業が休講になる場合は、休講掲示及び学生ポータルサイトの「休講情報」にて伝達する。
- ◇ スマートフォンからも確認することができる。

[http://kyuko2.nodai.ac.jp/portalv3\\_p/kyuko.do](http://kyuko2.nodai.ac.jp/portalv3_p/kyuko.do)

- ◇ 休講となった授業の補講については、授業中における担当教員からの指示または掲示板において周知するので確認すること。
- ◇ 授業の教室を変更する(した)場合は、学生ポータルサイト及び掲示板に掲載する。

### (3) 先生方に質問や相談をしたい・・・

授業に関する質問や相談は授業中に行うのが原則であるが、次の方法で行うことも可能。

- ◇ オフィスアワーを確認して研究室などを訪ねる。  
オフィスアワーとは、教員が学生の相談を受け付ける時間を設定すること。各教員のオフィスアワーは学生ポータルで確認することができる。

### (4) より良い授業にするために・・・

本学では授業をより良くするために、前学期と後学期に「学生による授業評価」を全科目で実施している。より良い授業を行うことは授業担当者の責務であるが、内容がきちんと受講生に伝わっているか、理解されているか、あるいは「わかりやすいか」を把握(測定)するためには授業評価を実施して受講生の声を集める必要がある。また、大学全体の授業と比較して自分の授業がどうであるかを把握する(つまり自分のポジションを確認する)ためにも授業評価は有効である。より良い授業は授業担当者と受講生が協力して創り上げるものであるため、積極的に実施すること。

なお、実施の方法については、学期毎に学生ポータルサイトに掲示する。

### (5) 授業のことで困ったら・・・

授業に対して意見がある場合は教務課窓口(厚木キャンパスは第二講義棟1階ラウンジ)に置いてある「授業に意見」という用紙を用いて提出することができる。これは日ごろ授業を受けていて感じること、改善してほしいと願っていることを発言するためのものである。提出された意見は十分検討し、改善を図ることになっている。

また、学生ポータルサイトには、大学への要望・提案および授業・研究室、学生生活上の悩み等をメールで受け付ける窓口を開設している。

**取扱い責任者： 東京農業大学・同短期大学部 副学長      E-mail [g-center@nodai.ac.jp](mailto:g-center@nodai.ac.jp)**

※ 情報管理は十分配慮する。メールで相談する場合は**所属学科名と学籍番号を必ず記載**すること。

## 17 試験について

授業科目の履修状況进行评估し、単位を認定するために試験を行う。授業科目によっては、レポートに代える場合がある。授業に出席し授業担当者の指示にしたがうこと。

### (1) 受験資格

- ① 当該授業科目を履修登録していること(有料科目については、納金済みであること。)
  - ② 当該授業担当者の定める出席日数を満たしていること(原則として授業日数の2/3以上の出席が必要。)
  - ③ 当該学期までの学費、その他の納付金を納入していること。
- ※ 休学期間中に試験を受けることはできない。

### (2) 定期試験

一定の期間内に時間割を決めて各学期に実施する試験である。定期試験を実施する授業科目及びその時間割は、試験開始1週間前に掲示板・学生ポータルサイトに発表する(実験・実習・演習科目は、原則として「定期試験」を実施しない。)

なお、定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により欠席した場合は、指定された期日(試験時間割発表時に掲示)までに欠席の事由(当日の状況など)を証明する書類を持参し、試験欠席の手続きを行うこと。この届出により、追試験の受験を認める。 **※欠席事由と添付提出書類は次のとおり。**

欠席事由	提出書類
病気	医師の診断書(試験当日の健康状態を記載のものに限る) または病院の領収書(日付及び氏名が記載されたもの)
交通機関の遅延	交通機関発行の遅延証明書
忌引(三親等までの親族の死亡)	死亡に関する書類(会葬通知等)
就職試験等	就職活動証明書(世田谷キャンパスはキャリアセンター、厚木キャンパスはキャリア課で証明を受けること) ※事由によっては証明が受けられない場合がある。必ず試験前、早めに窓口で確認すること。なお、 <u>企業説明会は認められないので注意。</u>
災害(水害・火災等)	官公庁による被災証明書

### (3) 定期試験に関する注意事項

- 試験時間は45分間。通常の授業時間とは異なるので注意すること。
- 学生証を所持していない学生は受験できない。なお、当日忘れた場合は、学生課(厚木キャンパスは学生教務課)にて仮学生証の発行を受けること(有料 500円・当日限り有効)。
- 受験科目が重複した場合は、事前に申し出ること。
- 試験場への入場は、試験開始後20分までとする(試験開始後は退場できない。)
- 試験場あるいは受験科目・授業担当者の間違い、無記名答案は受験しても無効となる。
- 答案は白紙であっても必ず提出すること。
- 不正行為が発覚した場合は、当該学期の評価をすべて無効(未評価)とする。
- 試験場においては、すべて監督者の指示に従うこと。
- その他試験に関しては関係窓口へ問い合わせること。

### 【試験時間】

授業時限	試験時限	試験時間	授業時限	試験時限	試験時間
1時限	1時限	9:00～ 9:45	4時限	7時限	15:00～15:45
	2時限	10:00～10:45		8時限	16:00～16:45
2時限	3時限	11:00～11:45	5時限	9時限	17:00～17:45
	4時限	12:00～12:45	5・6時限	10時限	18:00～18:45
3時限	5時限	13:00～13:45	6時限	11時限	19:00～19:45
	6時限	14:00～14:45			

※授業時限5・6時限/試験時限10時限は、授業時限5時限の科目が試験時限9時限に全て配当された場合、授業時限6時限は試験時限10時限になる。



#### (4) 追試験

定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により受験できなかった者のうち、指定された期日までに試験欠席届を提出した者に対して各学期末に行う試験。

**※ 追試験を欠席した場合の再度の試験は行わない。**

#### 【追試験の実施について】

追試験の実施方法は、各学期の成績表開示時に掲示板または学生ポータルサイトにて確認すること。

追試験は、当該学期の定期試験をやむを得ない事由(※「(2) 定期試験」を参照のこと。)により、定期試験を受験できなかった場合に、その根拠書類とともに所定期間内に申請し、追試期間中に追試験を受けるもの。

### 18 成績相談について

各学期に履修した授業科目の評価(成績)については、学生ポータルサイト上で確認すること。この成績に関して質問がある場合は、成績開示後の成績相談日(通常授業と同曜日・同時限・同教室で実施)に出席し、授業担当者に直接指導を受けること。

なお、この成績相談は、評価の変更を目的として行うものではなく、今後の学習を進めるうえでどのような点に留意する必要があるのか、どのような点が理解できなかったのかを確認するために行うものである。この制度の主旨を理解のうえ出席すること。

事前に所定用紙に記入して持参すること。

### 19 成績評価とGPAについて

#### (1) 成績評価

「秀」「優」「良」「可」が合格で、「不可」「未評価」は不合格。成績評価の基準は、次のとおり。

#### 【成績評価基準のガイドライン】

判定	成績	表示	成績評価基準	GP	成績評価内容
合格	秀	S	100～90点	4.0	特に優れた成績(履修者の5%以内)
	優	A	89～80点	3.0	優れた成績
	良	B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
	可	C	69～60点	1.0	合格と認められる成績
不合格	不可	D	59点以下	0	合格と認められる成績に達していない
	未評価	F	—	0	評価に値しない

#### (2) GPAについて

自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるため、GPAを算出している。

##### ① GPA対象科目

GPAの対象科目は、①「卒業要件に算入できる科目」であって、かつ②「5段階評価によって成績を認定する科目」とし、③「学生が履修登録した科目」とする。

したがって、他学科・他学部聴講科目などは含め、リメディアル教育科目、教職・学術情報課程及び認定科目は除く。

## ② GPAの算出方法

### 【a. 学期ごとのGPAの算出方法】

学期ごとのGPA算出は、次の式による。

(当該学期で履修登録したGPA対象科目のGP×その科目の単位数)の合計

―――  
当該学期で履修登録したGPA対象科目の単位数の合計

注1) GPA対象科目で不可(D)及び未評価(F)科目は、分母に含む。

注2) 通年科目は後学期に含めGPAを算出する。

注3) 「不可」・「未評価」となった科目を再履修した場合は、再履修した当該学期の対象科目に含め、GPAを算出する。

注4) 前項の場合、「不可」・「未評価」となった学期のGPAは変更しない。

### 【b. 通算GPAの算出方法】

通算GPAは、在学中に履修登録したすべてのGPA対象科目に基づき、その算出は次の式による。

(在学中に履修登録したGPA対象科目の最新GP×その科目の単位数)の合計

―――  
在学中に履修登録したGPA対象科目の単位数の合計

注1) 通算GPAは毎学期末に算出する。

注2) 再履修した場合は1科目としてカウントする(ダブルカウントしない)。

注3) 再履修した科目のGPは、最新の評価に基づく値で算出する。

## 20 時間割を参照するうえでの留意事項

### (1) 学期表示

- ① 同一時限に開講する科目は横並びに表示している。
- ② 集中授業科目は開講学期に従い表示している。

### (2) 科目の種類(区分欄に表示)

必……………必修科目                      選必……………選択必修科目                      空欄……………選択科目

### (3) クラス分け表示

- ① クラス分けのある科目は、クラス分け表に基づき自分の所属するクラスを確認すること。
- ② 大学の総合教育科目時間割に大文字のA・B・C…でクラス分け表示がある場合は、オープン科目であるので、各自の時間割に合わせて選択し、受講すること。
- ③ クラス分けのない科目は、クラス表示をしない。

### (4) 隔週表示

区分欄の前に「隔週」と表示した科目は、1週おきに単独あるいは2科目交互に実施する科目である。実施については掲示及び学科の指示に従うこと。

### (5) 集中授業科目について

- ① 農場で行う実習の日程は、学生ポータルサイトに掲示するので必ず確認すること。
- ② 教室については後日掲示する。

### (6) 担当者表示

担当者が複数の科目は備考欄に全担当者の名前を列記していることがある。

**(7) 教室表示**

- ① 教室欄に2室以上担当している科目は、いずれの教室で実施するかを担当教員または開講学科の事務室（厚木キャンパスは学生教務課）で確認すること。
- ② 実験・実習・演習室は略称表示をしているので、「実験・実習・演習室略号一覧」（※「農学部」、「応生・環境・国際学部」、「短大部」の時間割先頭ページに記載）で確認すること。
- ③ 教室の場所がわからない場合は、窓口で確認すること。

**(8) 開講時限・教室等の変更**

**時間割・教室等は、変更になることがあるので、必ず学生ポータルサイトまたは掲示板を確認すること。**

**(9) 教職課程科目の時間割**

- ① 学科欄に学科名の短縮表示のある科目は、学科指定の科目である。当該学科・学年の学生は必ず指定の時間で履修すること。  
※ 再履修者はこの限りではない。各自の時間割にあわせて選択し、受講すること。
- ② クラス欄にアルファベット表示のある科目はオープン科目である。各自の時間割にあわせて選択し、受講すること。

**(10) 履修番号欄の「\*\*\*\*」は、次の場合に表示している**

- ① 当該時限の前の科目を引続き開講する場合
- ② 後学期において通年科目を表示する場合